

日本天文学会 1999 年秋季年会の開催と講演の申し込みについて (抜粋)

これは、巻末の p.331~p.334 に記載されている「講演の申し込みについて」の最初の部分の抜粋です。ここに記載されているもの以外の情報も巻末には書かれていますので、講演を申し込まれるときには巻末の部分も必ずお読み下さい。

＜秋季年会＞ 1999 年 10 月 7 日 (木) ~ 9 日 (土)、九州大学

【講演申し込み】

1) 申し込み期間

- ・ 郵送による申し込み : 1999 年 7 月 8 日 (木) 必着
- ・ 電子メールによる申し込み : 1999 年 7 月 5 日 (月) 正午から 7 月 9 日 (金) 正午まで

注意：電子メールでの申し込み受付は、コンピュータで自動処理されています。

上記の期間以外はメールを受け付けませんので、ご注意ください。

2) 申し込み方法

- ・ 郵送による申し込み

規定の申込用紙に記入し、封筒の表に「講演申込書在中」と朱書の上、

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 日本天文学会年会係までお送りください。

- ・ 電子メールによる申し込み

電子メールでの申し込み方法につきましては、申し込み 1 ヶ月ほど前に tennet を通して連絡します。tennet から直接情報を入手できない方は、tennet 加入者にお聞きください。また、WWW (<http://www.tenmon.or.jp/>) にも掲載します。電子メールに関係することにつきましては、学会事務局へのお問い合わせはご遠慮ください。

3) 申し込みにおける注意＜重要＞

- ・ 講演は、天文学に関する完成度の高い研究に限ります。
- ・ 講演の形式は、口頭講演 (10 分間の口頭発表と 5 分間の質疑応答) とポスター講演 (ポスターの掲示と 3 分間の口頭発表) の 2 種類です。
- ・ 筆頭著者が講演者となります。
- ・ 複数の講演の申し込みもできますが、口頭講演 (10 分発表) は同一講演者 (筆頭著者) について 1 件までです。
- ・ 郵送での申し込みの場合は 1 講演につき 1 枚の申込用紙に記入してお送りください。電子メールでの申し込みの場合は、1 講演につき 1 つのメールで申し込んでください。
- ・ 同一講演について二重の申し込み (例えば、電子メールと郵送の両方で申し込んだり、電子メールを複数送ることなど) は決してしないでください。このような申し込みがなされた場合は、受理いたしません。
- ・ 関連するいくつかの講演について発表の順序に希望がある場合には、講演申し込み期間内に、年会実行委員長までご相談ください。

4) 予稿原稿用紙の記入等について (郵送による申し込みの場合)

- ・ 用紙の右側の部分には、申し込む分野、筆頭著者に関する情報、発表形式を記入してください。非会員の方は、右下の連絡先にもご記入ください。
- ・ 用紙の左側の部分が予稿集に印刷されます。
- ・ 分野 (キーワード)、題名、氏名 (所属) は、左詰めで記入してください。
- ・ 講演する人の名前を氏名の欄の最初に書いてください。
- ・ 分野とキーワードについては、下記 6) を参照してください。
- ・ 予稿の本文は、氏名の下の大きな空欄に黒で明瞭に書いてください。枠線からはみ出たものは印刷されない可能性があります。原稿は、90% 程度に縮小されて印刷されます。
- ・ 印刷した別紙を原稿用紙に貼りつける場合は、粘着テープなどは使わずに、糊で確実に貼ってください。
- ・ 申し込み用の原稿用紙が不足する場合は、必要枚数を天文学会年会係まで請求してください。(連絡先は下記)

5) 電子メールで申し込む場合の注意

- ・ 電子メールでの予稿の書き方につきましては、申し込み方法と一緒に tennet を通して連絡します。
- ・ LaTeX 形式で書いていただきますが、誤り無く印刷されることを十分確認してから、1 回だけ投稿してください。同一講演について 2 回以上メールで投稿することは決してしないでください。
- ・ 投稿された予稿に必要な事項が記入されているかどうか確認された後、折り返し受付番号を記した電子メールが投稿されたアドレスに届きます。
- ・ 電子メールのサーバーは自動で動いています。予稿以外のことをメールに書かれてもそれは無視されます。

日本天文学会年会予稿原稿用紙
(記入にあたっては裏面を参照のこと)

分野

筆頭著者名 (漢字、
外国人はアルファベット)

筆頭著者所属 (大学名と学部名)

姓 (ひらがな、外国人はアルファベット)

名 (ひらがな、外国人はアルファベット)

会員種別 (該当するものに○)

正会員・準会員・非会員

会員番号

発表形式 (該当するものに○)

- a. 口頭講演
- b. ポスター講演

会員種別が非会員の場合

連絡先

電 話 :

ファックス :

メールアドレス :

分野 (キーワード) <左詰め>

題名 <左詰め>

氏名 (所属) <左詰め>

日本天文学会
1999年秋季年会

- ・非会員の方も、電子メールでの申し込みができます。
- ・電子メールによる投稿の場合、予稿本文がWWWに掲載されます。支障のある方は、前もってご連絡ください。

6) 分野・キーワードと「企画セッション」

- ・講演分野の分類は、以下の15通りです。

J. 位置天文学、K. 天体力学、L. 太陽系、M. 太陽、N. 恒星、P. 星形成、Q. 星間現象、R. 銀河、S. 活動銀河核、T. 銀河団、U. 宇宙論、V. 地上観測機器、W. 飛翔体観測機器、X. 情報処理、Y. 天文教育・その他

- ・上記分野以外に「企画セッション」を行います。今回の年会でのテーマは下記の2つです。こちらのセッションで講演されたい方は、分野として下記の分野名をご記入下さい。(講演の形式は、通常のセッションと同じです。)

A. 宇宙ジェット、B. 銀河形成

- ・申し込みの分野の分類に続けて、プログラム編成のため、内容を最もよく表すキーワードをご記入ください [例：銀河団 (重力レンズ、ダークマター)]。

・キーワードはご自分で自由に選んでいただけますが、特に講演数の多い「M. 太陽」、「N. 恒星」、「V. 地上観測機器」の3分野につきましては、以下の「推奨キーワード」の中からご自分の講演に関係が最も深いものを選んで、キーワードの先頭に入れてくださるようお願いいたします。これは、講演のプログラムを編成する上で参考にさせていただくためのものです。該当するものが無い場合は、ご自分で選んでいただいたキーワードだけで結構ですし、複数該当する場合には複数を書いていただいても結構です。

太陽：「太陽内部」、「光球・彩層」、「活動領域」、「プロミネンス」、「フレア」、「コロナ」、「CME・太陽風」

恒星：「超新星」、「コンパクト星」、「巨星」

地上観測機器：「電波」、「赤外」、「可視」、「重力波」、「高エネルギーγ線」、「宇宙線」

※なお、ビデオ等の機器の使用やポストデッドライン・ペーパー、そして講演キャンセルの扱い、登録料、保育室などにつきましては、巻末をご覧ください。

【問い合わせ先】

	電子メール	電話	FAX
年会開催地理事	山岡均	yamaoka@rc.kyushu-u.ac.jp	092-726-4739 (FAX 兼用)
日本天文学会	年会係	nkdtp@tenmon.or.jp	0422-31-5488
年会実行委員長	吉川真	makoto@pub.isas.ac.jp	042-759-8341 (FAX 兼用)

(年会実行委員長 吉川真)

記入例

日本天文学会年会予稿原稿用紙 (記入にあたっては裏面を参照のこと)		分野 情報処理
左詰め 情報処理 (天文学会年会、予稿、申し込み)		筆頭著者名 (漢字、 外国人はアルファベット) 天文学
左詰め 天文学会年会の現状と申し込みにおけるトラブル		筆頭著者所属 大学名と学部名 銀河大理
左詰め 天文学 (銀河大理、Nomy Astro(Galaxy Univ.))		姓 ひらがな、外国人はアルファベット てんもん
毎年、春と秋の2回、天文学会の年会が開催されているが、年会の講演数や参加者数は増加の傾向にある。これは天文学の発展にとって好ましいことである。しかし、各種のトラブルも多くなった。ここでは、天文学会年会の現状とトラブルについてまとめて報告する。		名 ひらがな、外国人はアルファベット まなぶ
まず、年会での講演数であるが、1999年春季年会(京都大学)では、総講演数が448件あり、これは1998年秋季年会(山形大学)の417件を越えて、最も多い件数となった。また、年会参加者についても710名となり、これは過去最多であった1998年春季年会(都立大学)の633名を大きく上回っている。このことは、天文学の研究がより盛んになってきたことを示しており、天文学にとっては非常に喜ばしいことである。		会員種別 該当するものを二つ <input checked="" type="checkbox"/> 正会員 <input type="checkbox"/> 準会員 <input type="checkbox"/> 非会員 会員番号 2219
しかし、講演数が増加するにつれて、各種のトラブルも発生している。最も影響が大きいものが講演のキャンセルであるが、1999年春季年会では5件のキャンセルがあった。また、講演者が変更となったものが5件あった。特に、講演がキャンセルされると、口頭講演なら15分間が空白の時間となってしまうし、ポスター講演ならポスターボードが無駄になってしまうことになる。また、講演申し込み時に目立つトラブルは、電子メールによる投稿において、締切間際に投稿するものである。Belltree (1999)によると、電子メール投稿の最終日(半日間の受付が、全体の4割近くあるという。さらに、全体の15%以上が締切時刻間際の1時間に投稿している。電子メールによる予稿受付は計算機によって自動処理されているため、締切時刻を少しでも過ぎると受付は拒否される。毎回、何件かの投稿が時間切れで不受理になっている。送信されたメールに何らかの不具合がある場合は受理されないが、特に、受理されないということが分かった時点で締切時刻を過ぎていると、不具合を修正して投稿し直すこともできなくなるので要注意である。		発表形式 該当するものを二つ <input type="checkbox"/> a. 口頭講演 <input checked="" type="checkbox"/> b. ポスター講演
		会員種別が非会員の場合 連絡先 電話: 000-000-0000 ファックス: 000-000-0000 メールアドレス: 受付時に記入されます

日本天文学会年会旅費補助について

日本天文学会は、年会の出席旅費の補助を行います。希望者は、該当する年会の申込締切日までに下記の用紙に記入の上、申請して下さい。応募資格は、1999年度会費納入済みの方で、筆頭講演者（ポスター講演を含む）に限ります。また、年会発表時に正会員（学生）であって、正式の給与（日本学術振興会特別研究生としての給与などを含む）を受けていない者とします。

社団法人 日本天文学会理事長

1. 旅費は、年会会場でお渡ししますので、印鑑をご持参の上、年会会場受付までお越し下さい。年会終了後にはお渡しできませんので、ご注意下さい。
2. 補助金支給の決定については、特に連絡しません。
3. 本用紙を複写したものを使用しても構いません。
4. 申込は 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 日本天文学会 まで郵送またはFAXでお願いします。締切は、1999年7月8日（木）必着です。 FAX：0422-31-5487
なお、電子メールでの申請は受け付けていません。

----- キリトリ -----

年会旅費補助申請書

1999年 月 日

社団法人 日本天文学会
理事長殿

(フリガナ)

申請者氏名 _____

会員番号 _____

連絡先 _____

電話番号 (- -)

ファックス (- -)

日本天文学会年会において研究発表を行うための出席旅費の補助を申請します。

所属機関名		身分・学年	
分野 発表研究題目			
発表者氏名 (全員)			
出発地			
1999年度会費納入	済み	未納	